

令和7年（5月～9月）

熱中症による救急搬送状況

令和7年5月から9月までの
東大阪市における熱中症による
救急搬送人数は、

458人となりました。

概要

全国的にも、厳しい暑さが続き、熱中症による救急搬送が多く発生しました。東大阪市内においても、屋外だけではなく、住居内での発生も多く、特に高齢者の熱中症予防が重要です。



主な特徴

発生場所別

道路が最も多く
次いで住居、仕事場の順となりました。



年齢区別

高齢者の搬送が多く、
暑さや喉の渇きを感じにくい
ことから、早めの対策が必要です。



熱中症を防ぐポイント

屋内では



エアコンは我慢せずに使用する。



扇風機を活用する。



温湿度計で確認する。



喉が渇く前に
水分補給をする。

屋外では



帽子や日傘を活用する。



日陰でこまめに休憩する。



無理な外出を控える。



スポーツドリンクなどで
塩分補給も行う。



注意が必要

小さなお子さんやペットは
地面から熱の影響を受けや
すいので、短時間でも注意
が必要です。

夜間も気づかぬうちに
熱中症になる危険がありま
す。エアコンのタイマー切
れに注意が必要です。

クールオアシスを活用してください。（猛暑時の一時避難所）

大阪府では、猛暑から府民の命を守るとともに健康被害の軽減を図ることを目的に、事業者の皆さんには、猛暑の際に施設や店舗等を暑さをしのげる涼しい空間（クールオアシス）として提供いただいています。クールオアシスはQRコードからご確認ください。



熱中症は予防が大切です。
早めの対策で、大切な命を守りましょう。



お問い合わせ

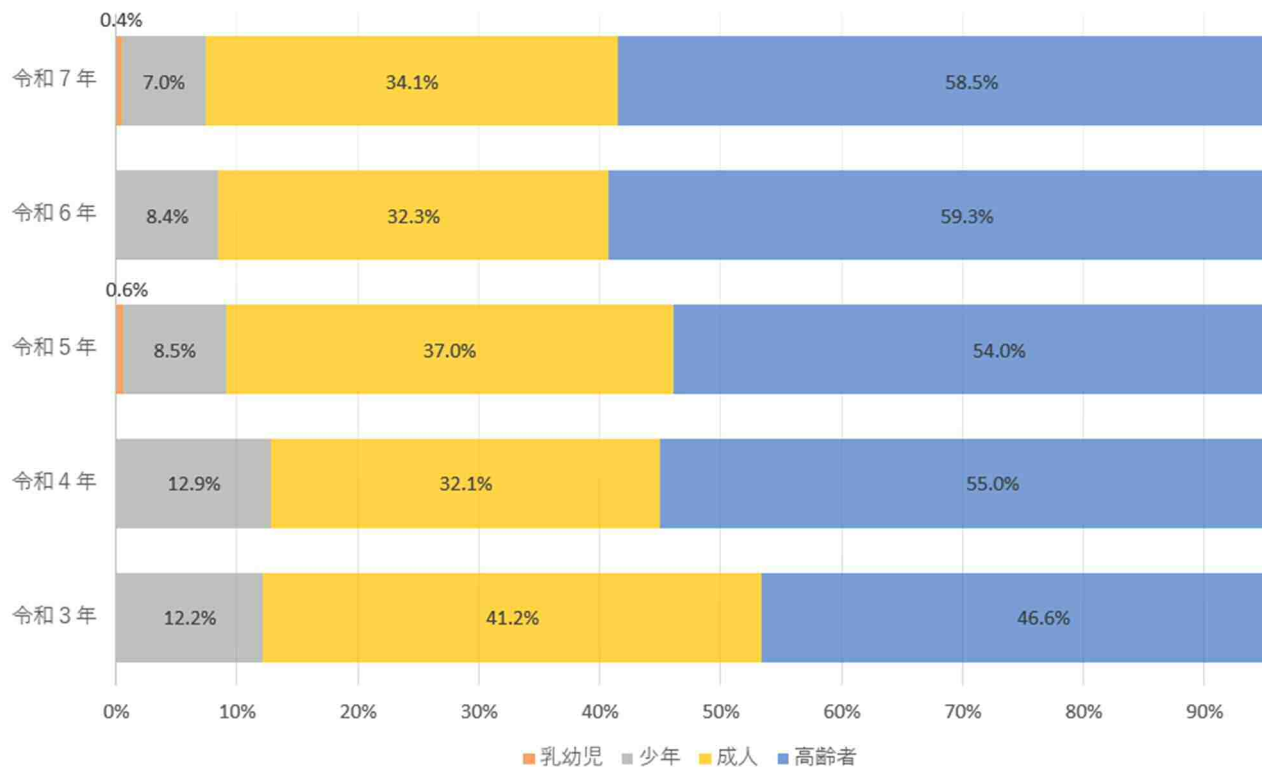
東大阪市消防局 警防部 救急課

☎ 072-966-9100

✉ shobokyukyu@city.higashiosaka.lg.jp

・年齢区別の救急搬送人員

高齢者が最も多く 268 人（58.5%）、次いで成人 156 人（34.1%）、少年 32 人、乳幼児 2 人（0.4%）の順となっています。

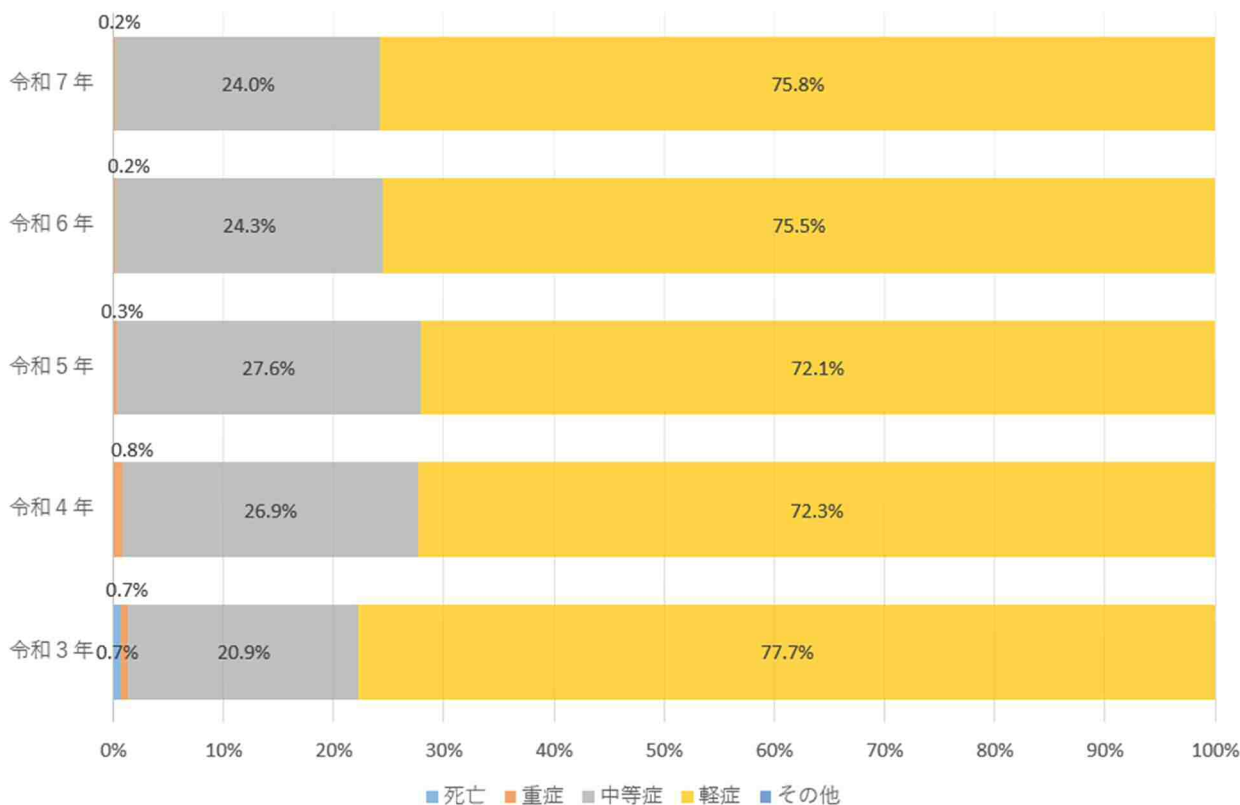


	年齢区別 (人)					合計
	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	
令和7年	0	2	32	156	268	458
	0.0%	0.4%	7.0%	34.1%	58.5%	100%
令和6年	0	0	40	153	281	474
	0.0%	0.0%	8.4%	32.3%	59.3%	100%
令和5年	0	2	29	126	184	341
	0.0%	0.6%	8.5%	37.0%	54.0%	100%
令和4年	0	0	32	80	137	249
	0.0%	0.0%	12.9%	32.1%	55.0%	100%
令和3年	0	0	18	61	69	148
	0.0%	0.0%	12.2%	41.2%	46.6%	100%

新生児 生後28日未満の者
 乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者
 少年 満7歳以上満18歳未満の者
 成人 満18歳以上満65歳未満の者
 高齢者 満65歳以上の者

・ 傷病程度別の救急搬送人員

軽症が最も多く 347 人（75.8%）、次いで中等症 110 人（24%）、重症 1 名（0.2%）の順となっています。



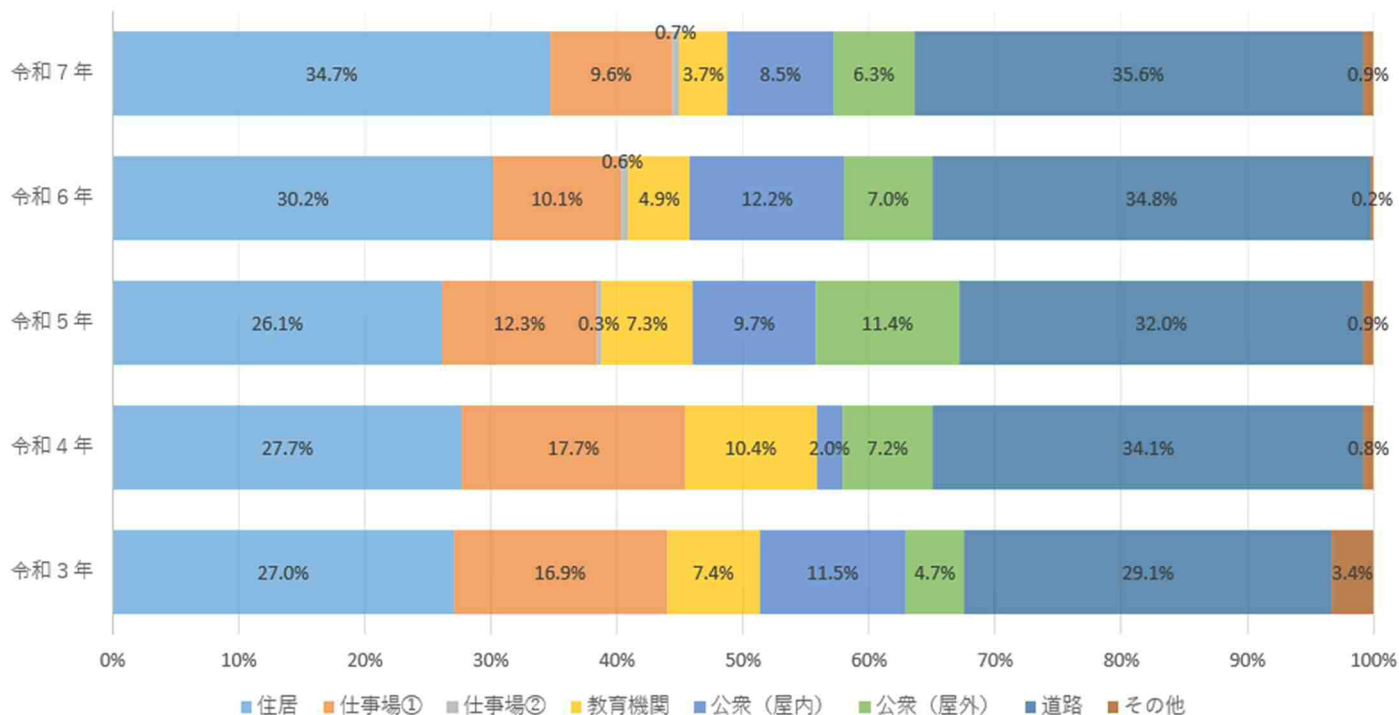
	傷病程度別（人）					合計
	死亡	重症	中等症	軽症	その他	
令和 7 年	0	1	110	347	0	458
	0.0%	0.2%	24.0%	75.8%	0.0%	100%
令和 6 年	0	1	115	358	0	474
	0.0%	0.2%	24.3%	75.5%	0.0%	100%
令和 5 年	0	1	94	246	0	341
	0.0%	0.3%	27.6%	72.1%	0.0%	100%
令和 4 年	0	2	67	180	0	249
	0.0%	0.8%	26.9%	72.3%	0.0%	100%
令和 3 年	1	1	31	115	0	148
	0.7%	0.7%	20.9%	77.7%	0.0%	100%

死 亡 初診時において死亡が確認されたもの
 重 症 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
 (長期入院)
 中 等 症 傷病程度が重症または軽症以外のもの
 (入院診療)
 軽 症 傷病程度が入院加療を必要としないもの
 (外来診療)
 そ の 他 医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、
 その他の場所へ搬送したもの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれる。

・発生場所別の救急搬送人員

道路が最も多く 163 人 (35.6%)、次いで住居 159 人 (34.7%)、仕事場①44 人 (9.6%)、公衆(屋内)39 人 (8.5%)、公衆(屋外) 29 人 (6.3%) の順となっています。

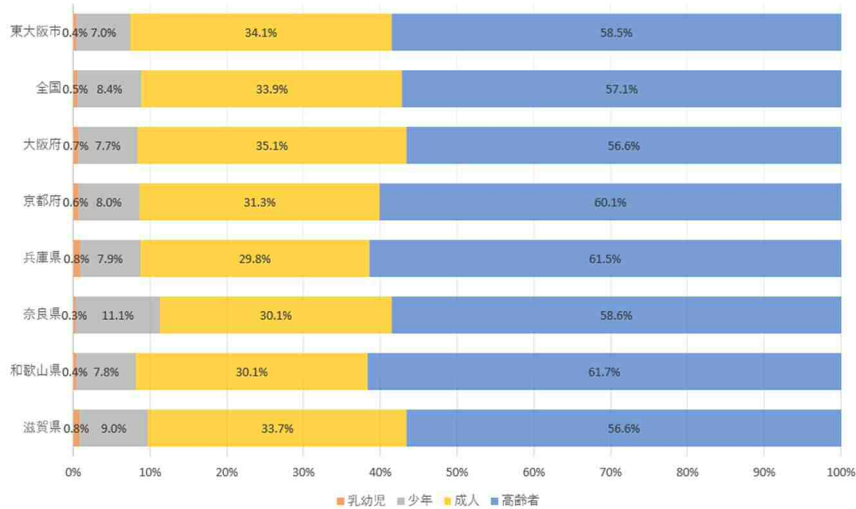


	発生場所別 (人)								合計
	住居	仕事場①	仕事場②	教育機関	公衆(屋内)	公衆(屋外)	道路	その他	
令和7年	159	44	3	17	39	29	163	4	458
	34.7%	9.6%	0.7%	3.7%	8.5%	6.3%	35.6%	0.9%	100%
令和6年	143	48	3	23	58	33	165	1	474
	30.2%	10.1%	0.6%	4.9%	12.2%	7.0%	34.8%	0.2%	100%
令和5年	89	42	1	25	33	39	109	3	341
	26.1%	12.3%	0.3%	7.3%	9.7%	11.4%	32.0%	0.9%	100%
令和4年	69	44	0	26	5	18	85	2	249
	27.7%	17.7%	0.0%	10.4%	2.0%	7.2%	34.1%	0.8%	100%
令和3年	40	25	0	11	17	7	43	5	148
	27.0%	16.9%	0.0%	7.4%	11.5%	4.7%	29.1%	3.4%	100%

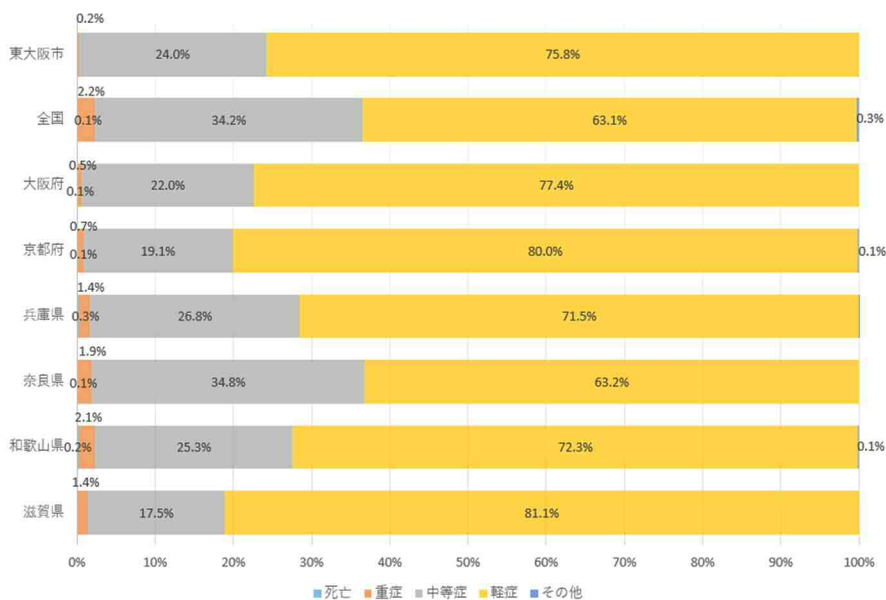
住居	(敷地内全ての場所を含む)
仕事場①	(道路工事現場、工場、作業所等)
仕事場②	(田畑、森林、海、川等 ※農・林・畜・水産作業を行っている場合のみ)
教育機関	(幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)
公衆(屋内)	不特定者が出入りする場所の屋内部分(劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等)
公衆(屋外)	不特定者が出入りする場所の屋外部分(競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(屋外ホーム)等)
道路	(一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)
その他	(上記に該当しない項目)

・ 全国との比較

【年齢区分別の救急搬送人員】



【傷病程度別の救急搬送人員】



【発生場所別の救急搬送人員】

